

平成 25 年度

知床半島先端部地区利用の心得啓発業務

報告書

平成 26 年 2 月

環境省釧路自然環境事務所

公益財団法人知床財団

業務概要

1. 業務名（英名）

平成 25 年度「知床半島先端部地区利用の心得啓発業務」

英名 : Improving Public Awareness about ‘Conduct in the Use of the Shiretoko Peninsula Apical Region’

2. 業務の背景・目的

「知床半島先端部地区利用の心得」（以下、「利用の心得」）では知床沼での野営が禁止されているが、「知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議」での議論において、一部地域に限り野営を見直すことが合意されており、その変更と変更内容の効果的な周知が求められる。本業務では、「利用の心得」の変更と効果的な周知を実施するものである。

3. 業務の実施体制

本業務は、環境省からの請負業務として公益財団法人知床財団が実施した。

4. 業務の内容

1) 知床半島先端部地区利用の心得の修正

「利用の心得」について、平成 24 年度の適正利用・エコツーリズム検討会議での議論に基づき、知床沼の野営禁止に関する図面を変更した。加えて、文中の用語の統一、より見やすい地図の作成、掲載施設の追加などの改訂を行った。変更した「利用の心得」は、平成 25 年度 7 月一部改訂版として、1,000 部を印刷した。

また、「利用の心得」について分かりやすく紹介しているウェブサイト、シレココ (<http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/>) についても、知床沼の野営禁止に関する変更のほか、団体名やリンクに関する変更を含む変更用原稿を作成し、環境省に提出した。

2) 知床半島先端部地区利用の心得の周知

「利用の心得」の内容を簡潔にまとめた普及啓発用のパンフレットを作成し、2,000部を印刷した。また、「利用の心得」とパンフレットを地元の山岳会やガイド事業者、札幌、東京等の山岳会、ガイド業者登山用品店に送付し周知を行った。その際、各団体等における近年の知床半島先端部地区の利用状況についてヒアリングを行った。

3) 地元における勉強会の開催

12月26日、羅臼ビジターセンターにおいて、地元の観光業者、遊漁船事業者、ガイド事業者等を対象とし、「利用の心得」に関する勉強会を開催した。

5. 今後の予定

特になし

目次

1. 業務の目的	1
2. 業務の内容	2
1) 「知床半島先端部地区利用の心得」の修正.....	2
a. 冊子「知床半島先端部地区利用の心得」の修正.....	2
b. ウェブサイト「知床半島先端部地区利用の心得 シレココ」変更用原稿の作成..	12
2) 知床半島先端部地区利用の心得の周知	20
a. パンフレット「知床半島先端部地区へ立ち入る方へ」の作成と配布	20
b. 先端部地区利用状況に関するヒアリング.....	25
3) 地元における勉強会の開催	30
3. 資料	32
1) 知床半島先端部地区利用の心得勉強会 説明資料.....	32
2) 知床半島先端部地区利用の心得勉強会 配布資料.....	37
3) 知床半島先端部地区利用の心得勉強会 意見交換議事録.....	38
4) 打合せ記録.....	50

1. 業務の目的

知床国立公園では、原始性の高い自然や野生動物とのふれあいを求める利用ニーズの増大と利用の多様化に伴い、利用者の集中や不適切な利用に伴う自然環境への悪影響が懸念されている。特に知床半島先端部地区（以下、先端部地区とする）においては、利用者の増加による自然環境や自然体験への質への悪影響、および野生動物との軋轢等が懸念されており、釧路自然環境事務所では、「知床半島先端部地区利用の心得」（以下、「利用の心得」とする）を定めるとともに、「知床世界遺産ルサフィールドハウス」を整備し、知床岬等の知床半島先端部地区の利用者に対し、情報提供やルール・マナーの啓発等を実施している。

「利用の心得」では知床沼での野営が禁止されているが、「知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議」での議論において、一部地域に限り野営を見直すことが合意されており、その変更と変更内容の効果的な周知が求められる。

以上を踏まえて、本業務は、「利用の心得」の変更と効果的な周知を実施するものである。

2. 業務の内容

本業務では、1)「利用の心得」の変更、2)「利用の心得」の周知、3) 地元における勉強会の開催 を実施した。

1) 「知床半島先端部地区利用の心得」の修正

a. 冊子「知床半島先端部地区利用の心得」の修正

「利用の心得」について、平成 24 年度の適正利用・エコツーリズム検討会議における議論に基づき、知床沼の野営禁止に関する図面の変更を行った。野営禁止箇所を示す図面の作成にあたっては、平成 25 年 6 月 30 日に行われた知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議知床沼部会による現地確認に同行し、指定箇所の範囲の確認、および写真撮影を行った（写真 1）。また、用語の統一、地図の改訂、掲載施設や参照ウェブサイト等に関する情報の追加などを含む「利用の心得」の変更案（表 1）を作成した。

「利用の心得」の変更案は、環境省担当官を通じて知床沼部会の構成団体に諮られ、最終的に決定した。変更された「利用の心得」は、平成 25 年度 7 月一部改訂版として、1,000 部を印刷した。変更した原稿の電子データは PDF 形式で環境省に提出し、知床データセンター¹内のページ²にアップロードされた。

¹ http://shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2013.pdf

² <http://shiretoko-whc.com/>



写真 1 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツアーリズム検討会議知床沼部会による野営地の検討

表 1 知床半島先端部利用の心得 変更箇所

	平成 25 年 7 月一部改訂版(新)			平成 22 年 3 月一部改訂版(旧)			変更点
	頁	行	記述	頁	行	記述	
1	表紙	-	平成 25 年 7 月	表紙	-	平成 22 年 3 月	・発行年を変更
2	目次	-		目次	-		・改訂内容に合わせ目次の項目、ページを変更
3	目次	-	知床国立公園利用適正化 検討会議構成員は巻末に まとめて記載した。	目次	-	検討会議の構成員は巻末にま とめて記載した。	・検討会議の記述を正式名称に 変更
4	1	-	図-1「知床半島先端部地 区 位置図」	18	-	別図-1知床半島先端部地区 位置図	・図の掲載ページを巻頭に変更。 ・図の名称を「別図」から「図」に 変更
5	1	-		18	-		・衛星写真を背景とした図を、地 図を背景とした図に変更
6	1	-		18	-		・縮尺記号を追加
7	1	-		18	-		・立入り・野営禁止地域の表示お よび凡例を削除(図-2「情報箇 所」に移動)
8	1	-		18	-		・「世界自然遺産区域」の表示お よび凡例を削除
9	1	-		18	-		・文字サイズを大きく変更
10	2	2	知床国立公園利用適正化 検討会議において、知床に かかわる多くの方々と共に 知床国立公園の望ましい保 護と利用のについて調査・ 検討を進めてきました。	1	2	現在、知床国立公園利用適正 化検討会議において、知床に かかわる多くの方々と共に知床 国立公園の望ましい保護と利 用のについて調査・検討を進め ています。	・「現在、」を削除し、文を過去形 に変更
11	2	7	図-1、図-2参照	1	7	別図-1「知床半島先端部地区 位置図」、「区域図」参照	・図表名を変更
12	3	16	(昭和 59 年)	2	16	(昭和59年)	・年号を全角から半角へ変更(年 号表記の全角・半角の表記ゆれ

							を半角に統一)
13	4	21	公益財団法人知床財団のホームページ等に設けられている情報	3	21	知床自然センターのホームページ等に設けられている情報	・ホームページの変更に伴い、記述を変更
14	4	25	図-2、図-4参照	3	25	別図-1「知床半島先端部地区位置図」、「区域図」参照	・図表名を変更
15	4	-		3	32	「携帯式電気牧柵」については、知床自然センターのホームページを参照。	・ホームページの変更に伴い、記述を削除
16	5	8	vii ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、常に周囲に気を配り、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出さず等あらかじめ人の存在を伝えること。(特にサケ・マス遡上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。)	4	8	vii ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出さず等あらかじめ人の存在を伝えること。 viii 常に周囲に気を配り、注意を払うこと(特にサケ・マス遡上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。)	・内容に共通点のある2つの項目を統合 ・ローマ数字の番号を変更
17	5	16	ii ヒグマに対して絶対にエサを与えないこと	4	14	x ヒグマに対して絶対にエサを与えないこと	・①未然防止の項目に含まれていたが、内容を考慮して②遭遇時の対応に移動 ・項目番号を変更
18	5	17 - 18	取られたものを <u>取り返そうとしない</u> こと	4	18	取られたものは取り返さないこと	・表現を変更

19	6	10	知床岬地域、ルシヤ地域 (ルシヤ川河口付近を中心にウブシノッタ川からタキノ川に至る地域)及び知床沼 一帯とその周辺の湿原域では、自然環境保全やヒグマ対策の観点から野営は行 わないこと。ただし、アブラコ 湾の海岸礫地と知床沼(北 沼)付近の指定された場所 を除く。	5	12	アブラコ湾の海岸礫地を除く知 床岬地域、ルシヤ地域(ルシヤ 川河口付近を中心にウブシノッ タ川からタキノ川に至る地域) 及び知床沼周辺では、自然環 境保全やヒグマ対策の観点か ら野営は行わないこと。	・知床沼での野営に関する記述 を変更
20	6	14	(各区域は、図-2~図-5 参照)	5	15	(各区域は、別図-1「先端部 地区位置図」、「区域図」参照)	・図表名を変更
21	7	6	「2. 共通事項」に加え、各 利用形態に応じ以下の事項 を遵守するものとする。(地 点名については図-2参 照)	6	7	「2. 共通事項」に加え、各利用 形態に応じ以下の事項を遵守 するものとする。	・地点名の参照先に関する記述 を追加
22	7	13	(ヘルメット、ロープ、地形 図、コンパス、レスキュー装 備等)	6	15	(ヘルメット、ザイル、地形図、コ ンパス、レスキュー装備等)	・ザイル・ロープの表記ゆれをロ ープに統一
23	7	14	ルート確保のためのロープ 等は残置しないこと。	6	17	ルート確保のためのザイル等 は残置しないこと。	・ザイル・ロープの表記ゆれをロ ープに統一
24	7	15	干潮でなければ超えること ができない地点の潮待ち場 所の状況は、事前にルサフ ィールドハウス、羅臼ビジター センターまたは知床自然 センターで確認すること。	6	18	干潮でなければ超えることがで きない地点があるため、潮待ち 場所等の状況は、事前にルサ フィールドハウス、羅臼ビジター センターまたは知床自然センタ ーで確認すること。	・表現を変更
25	7	33	ルート確保のためのロープ 等は残置しないこと。	6	38	ルート確保のためのザイル等 は残置しないこと。	・ザイル・ロープの表記ゆれをロ ープに統一

26	8	25	出発地と帰着地の状況、上陸場所の適否等に関する情報について、事前にルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンターまたは知床自然センターに確認すること。	7	31	出発地と帰着地の状況、上陸場所の適否等に関する情報について、事前に羅臼ビジターセンターまたは知床自然センターに確認すること。	・確認先にルサフィールドハウスを追加
27	9	5	エエイシレド岬	8	9	エイシレド岬	・地名を修正
28	9	3	②陸の近くを航行する場合は、海鳥、猛禽類や岩礁に上陸している海生哺乳類への影響を与えないよう、低速で航行すること。	8	20	⑦海鳥、猛禽類や岩礁に上陸している海生哺乳類への影響を与えないよう、陸の近くを航行する場合は低速で航行すること。	・表現の変更 ・項目の位置を変更 ・項目の位置変更に伴い項目番号の変更
29	9	10	⑤オジロワシが止まり場として海岸の岩場を利用している場合には <u>100m</u> 以上距離を取ること。 ⑥棲哺乳類、海鳥、猛禽類及びヒグマ等への接近やクジラ類やイルカ類の追い回しを行わないこと。	8	14	④オジロワシが止まり場として海岸の岩場を利用している場合には100m以上距離を取るなど、棲哺乳類、海鳥、猛禽類及びヒグマ等の生態行動に影響を与えるような接近行為やクジラ類やイルカ類の追い回しを行わないこと。	・項目を分割、数字を全角から半角へ変更(年号表記の全角・半角の表記ゆれを半角に統一) ・「行為」を削除
30	9	13	⑦海棲哺乳類の側から接近してきた場合には、その行動を妨げないよう船の進路を変更するか、減速すること。	8	16	⑤海棲哺乳類の側から接近してきた場合には、その行動を妨げないよう船の進路を変更するか、 <u>状況により</u> 減速すること。	・「状況により」を削除
31	10	図 2	図-2 「情報箇所」	20		別図-2 情報箇所	・図表名を変更
32	10	図 2		20			・衛星写真を背景とした図を、地図を背景とした図に変更
33	10	図 2		20			縮尺記号を追加

34	10	図 2		20			・立入り・野営禁止地域の表示および凡例を削除(図-2「情報箇所」に移動)
35	10	図 2		20			・文字サイズを大きく変更
36	11	図 3	図-3「野営を行わないこととされている地域(知床岬地域)」	19		区域図	・図表を独立させ図表名を付与
37	11	図 3		19			・衛星写真を背景とした図を、地図を背景とした図に変更
38	11	図 3		19			・縮尺記号を追加
39	11	図 3		19			・文字サイズを大きく変更
40	11	図 4	図-4「立入りおよび野営を行わないこととされている地域(ルシャ地域)」	19			・図表を独立させ図表名を付与
41	11	図 4	ウブシノッタ川 ルシャ川 テツパンベツ川	19		ウブシノッタ川	・河川名称の表記ゆれを統一 ・ルシャ川、テツパンベツ川を追加
42	11	図 4	1380 林班・1381 林班 道有地	19		380 林班(知床風景林)・381 林班 道有地(旧三井農林)	・林班番号の訂正 ・「(知床風景林)」の削除
43	11	図 4	ルシャ川河口付近を中心に ウブシノッタ川～タキノ川に至る地域	19			・記述を追加
44	12	図 5	図-5「野営を行わないこととされている地域(知床沼周辺)」	19			・図表を独立させ図表名を付与
45	12	図 5		19			・衛星写真を背景とした図を、地図を背景とした図に変更

46	12	図 5	<u>指定区域を除く南・北沿岸の湿原域及びその周辺の湿原域</u>	19		南・北沿岸の湿原植生地	・野営禁止区域に関する記述を変更
47	12	図 5		19			・縮尺記号を追加
48	12	図 5		19			・文字サイズを大きく変更
49	12	図 5		19			・指定区域の写真を追加
50	12	図 5	指定区域 ・4人用テント3～4張り分の広さ。 ・ロープ外の植生を傷めないよう、十分に注意する。	19			・指定区域の写真の説明を追加
51	12	図 5	知床沼での野営が避けられない場合には、ロープ(白色)で表示した範囲内で行うこと。 ルールが守られず、ロープ外側の植生へのダメージが認められた場合、ロープ内も含めて知床沼周辺を完全野営禁止とする。	19			・指定区域での野営に関する説明を追加
52	14	13	<u>海域公園地区</u> の周辺部における海底の形状変更	10	13	<u>海中公園地区</u> の周辺部における海底の形状変更	・海中公園を海域公園に変更
53	14	14	知床国立公園では <u>海域公園地区</u> の指定なし	10	14	知床国立公園では <u>海中公園地区</u> の指定なし	・海中公園を海域公園に変更
54	15	1	図-2参照	11	1	別図-2「情報箇所図」参照	
55	15	15	ここには漁業ロープが取り付けられているが、 <u>老朽化しているため、このロープに頼って上り下りすることは極</u>	11	15	ここには漁業ロープが取り付けられており、これを用いて登り降りするようになっている。	

			<u>めて危険である。</u>				
56	15	34	また、北側数 <u>m</u> の区間はへつる足場がないため、大潮の干潮ピーク時を除けば、必ず腰まで海につかることを覚悟すべきである。	11	34	また、北側数 <u>m</u> の区間はへつる足場がないため、大潮の干潮ピーク時を除けば、必ず腰まで海につかることを覚悟すべきである。	・メートル表記を全角に統一
57	—	—	—	12	3	ロープが取り付けられているが、老朽化しているため、このロープに頼って上り下りすることは極めて危険である。	・文を削除
58	16	26	北側斜面の上部 <u>20m</u> ほどは崩壊しやすい急斜面のため、 <u>ロープ</u> なしでの通過は困難であるが、現地にロープ等は取り付けられておらず、また周辺に <u>ロープ</u> の支点となるような樹木はない。	12	26	北側斜面の上部 20m ほどは崩壊しやすい急斜面のため、ザイルなしでの通過は困難であるが、現地にロープ等は取り付けられておらず、また周辺にザイルの支点となるような樹木はない。	・フォントを統一 ・ザイル・ロープの表記ゆれをロープに統一
59	17	1	ウブシノッタ川	13	1	ウブシノッタ川	・河川名称の表記ゆれを統一
60	17	3	ウブシノッタ左岸	13	3	ウブシノッタ左岸	・河川名称の表記ゆれを統一
61	18	13	・運行にあたっての気象・海況などの判断は、羅臼遊漁釣り部会が判断して運行する。 <u>・ライフジャケット装着の徹底</u>	14	13	・運行にあたっての気象・海況などの判断は、羅臼遊漁釣り部会が判断して運行する。ライフジャケット着用の徹底。	・文を独立した項目に
62	18	20	サケ <u>5</u> 匹以内	14	20	サケ5匹以内	・数字を半角に統一
63	18	23	<u>9</u> 月末日までとする	14	23	9月末日までとする	・数字を半角に統一
64	18	25	<u>4</u> 箇所とする	14	25	4箇所とする	・数字を半角に統一
65	—	—	—	15	15	—	・参考「知床半島先端部地区利用適正化基本計画」との関連を

				17			削除
66	16	1	<u>知床国立公園利用適正化 検討会議(平成13年度から 平成21年度)構成員</u>	21	1	検討会議構成員	・記述を追加
67	裏 表 紙	8	電話:0152-24-2297 FAX:0152-24-3646	裏 表 紙		電話:01522-4-2297 FAX:01522-4-3646	・ウトロ自然保護官事務所の電 話番号・FAX 番号を変更
68	裏 表 紙	25	http://center.shiretoko.or.jp	裏 表 紙		http://www.shiretoko.or.jp	・知床自然センターの URL を変 更
69	裏 表 紙	32	知床半島先端部利用の心 得 シレココ(web サイト) http://www.env.go.jp/park/ shiretoko/guide/sirecoco/	裏 表 紙		—	・「シレココ」の URL を追加
70	裏 表 紙		平成 25 年 7 月一部改訂	裏 表 紙			・改訂時期を追加

b. ウェブサイト「知床半島先端部地区利用の心得 シレココ」変更用原稿の作成

「利用の心得」について分かりやすく紹介しているウェブサイト、「知床半島先端部地区利用の心得 シレココ」³について、知床沼の野営禁止に関するページの画像の改訂を行った。内容は「利用の心得」の改訂に準じた。加えて、団体名や外部リンク URL などのうち、変更が生じている箇所についても確認を行い、変更用原稿（表 2）を作成し、環境省に提出した。ウェブサイトは 12 月上旬に更新された。

³ <http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/>

表 2 ウェブサイト「知床半島先端部地区利用の心得 シレココ」の変更用原稿

ページ	変更内容
<p>トップページ</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/index.html</p>	<p>・画像 (datadenter.gif) のリンク URL を変更</p> <p>【変更前】 http://dc.shiretoko-whc.com/press/keihatsu.html</p> <p>【変更後】 http://shiretoko-whc.com/press/rule.html</p>
<p>「知床岳登山」</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/mountainous/index.html</p>	<p>・野営禁止に関する画像を、新たに作成した画像（画像 1）に差替え。「利用の心得」の改訂に伴い、知床沼周辺の野営禁止に関する記述を変更した。ロープで囲まれた指定区域内での野営を行うよう図示した。</p> <p>・項目「登山道がない山」の地図画像と文言を、新たに作成したイラスト（画像 2）に差替え。野営禁止箇所の表示に「(指定区域を除く)」の記述を追加した。</p> <p>・項目「知床沼は野営禁止です」を新たに作成し、タイトル（画像 3）および指定区域の説明（画像 4）を追加。知床沼周辺では基本的に野営禁止である旨を記述した上で、やむを得ず知床沼周辺で野営を行う際の注意事項を記述した。</p>
<p>「知床半島先端部地区の地図」</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/map/index.html</p>	<p>・知床沼周辺について「指定区域を除く南・北沼岸の湿原およびその周辺の湿原植生地域では野営禁止」の文言を追加した地図画像（画像 5）を作成し、従来の地図画像と差替え。</p>
<p>「シーカヤック」</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/kayak/index.html</p>	<p>・「Q&A ヒグマを正しく知る」のリンクを変更</p> <p>【変更前】http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear01/</p> <p>【変更後】 http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear/index.html</p>

<p>「リンク集」</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/link/index.html</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「知床自然センター」のリンクを変更 <p>【変更前】</p> <p>http://www.shiretoko.or.jp/index.html</p> <p>【変更後】</p> <p>http://center.shiretoko.or.jp/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道水産局」のリンクを下記の通り変更 <p>【変更前】</p> <p>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ggk/ggs/new/top</p> <p>【変更後】</p> <p>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ggk/ggs/new/top.htm</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道」のリンクを下記の通り変更 <p>【変更前】</p> <p>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/ssi/mokuji</p> <p>【変更後】</p> <p>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/ssi/mokuji.htm</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知床データセンター」のリンクを 下記の通り変更 <p>【変更前】</p> <p>http://dc.shiretoko-whc.com/</p> <p>【変更後】</p> <p>http://shiretoko-whc.com/</p>
<p>「ヒグマを正しく知る」</p> <p>http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear/index.html</p>	<p>ページ下部「ここでレンタルできます！」のリンク先アドレスを変更</p> <p>【変更前】</p> <p>http://www.shiretoko.or.jp/information/information.htm</p> <p>【変更後】</p> <p>http://center.shiretoko.or.jp/</p>

<p>「先端部地区でのヒグマ対策」 http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/bear02/index.html</p>	<p>ページ下部「ここでレンタルできます！」のリンク先アドレスを変更</p> <p>【変更前】 http://www.shiretoko.or.jp/information/information.htm</p> <p>【変更後】 http://center.shiretoko.or.jp/</p>
<p>「ヒグマ対策アイテム」 http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/rental/index.html</p>	<p>・Q&A 「携帯式電気柵の使い方」、携帯式電気柵案内ページ（財団法人知床財団）を削除</p> <p>・ページ下部「ここでレンタルできます！」知床自然センターのリンク先アドレスを変更</p> <p>【変更前】 http://www.shiretoko.or.jp/information/information.htm</p> <p>【変更後】 http://center.shiretoko.or.jp/</p>
<p>「サイトマップ」ページ http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/sitemap/index.html</p>	<p>・「知床半島先端部利用の心得」のファイルサイズ表記を変更</p> <p>【変更前】 [PDF: 8.00MB]</p> <p>【変更後】 [PDF: <u>6.12MB</u>]</p> <p>・「知床半島先端部利用の心得」のリンク URL を変更</p> <p>【変更前】 http://dc.shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2010.pdf</p> <p>【変更後】 http://shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2013.pdf</p>
<p>「FAQ」ページ http://www.env.go.jp/park/shire</p>	<p>・「日本語版ダウンロード」のファイルサイズ表記を変更</p> <p>【変更前】</p>

<p>toko/guide/sirecoco/faq/index.html</p>	<p>[PDF: 8.00MB]</p> <p>【変更後】</p> <p>[PDF: <u>6.12MB</u>]</p> <p>・「日本語版ダウンロード」の URL を変更</p> <p>【変更前】</p> <p>http://dc.shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2010.pdf</p> <p>【変更後】</p> <p>http://shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2013.pdf</p>
<p>全ページ共通</p>	<p>・フッターの「財団法人 知床財団」の文字を「公益財団法人 知床財団」に変更</p> <p>・フッターの「知床半島先端部地区利用の心得」のファイルサイズ表記を変更</p> <p>【変更前】</p> <p>[PDF: 8.00MB]</p> <p>【変更後】</p> <p>[PDF: <u>6.12MB</u>]</p> <p>・リンク URL を変更</p> <p>【変更前】</p> <p>http://dc.shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2010.pdf</p> <p>【変更後】</p> <p>http://shiretoko-whc.com/data/management/rules/sentan_rules_2013.pdf</p>



画像 1 img06.gif



知床でよく知られる羅臼岳などと異なり、知床半島先端部の山には登山口はもちろん、山頂へ至る道もなく、一般に見られる「登山地図」も販売されていません。利用できるのは等高線が記載された2万5千分の1地形図です。

入山に際しては、計画書を最寄りの警察署に届け出て、相泊にある入林箱に日程や緊急連絡先を記入してから行きましょう。

画像 2 tozando.jpg

知床沼周辺は野営禁止です

画像 3 h2_img03.gif

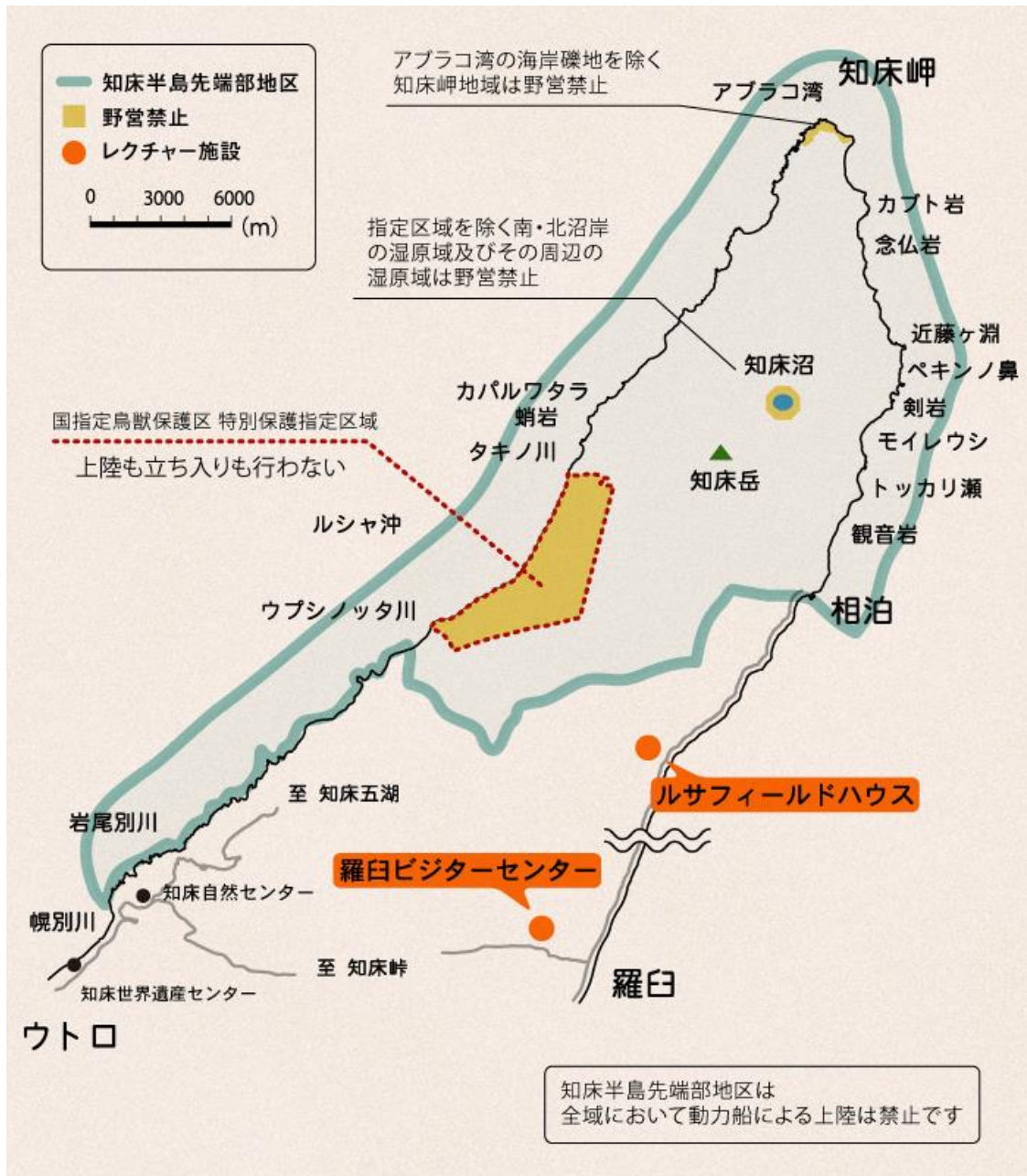
知床岳登山の行程で、やむを得ず知床沼付近に野営する場合は、ロープ囲いのある指定区域を利用してください。



- ・ 区域は4人用テント3~4張程度。
- ・ 周囲は湿原の脆弱な環境であるため踏みつけ等をしないこと。
- ・ ロープの外で幕営、調理等をおこなわないこと。

ルールが守られず、ロープ外側の植生へのダメージが認められた場合、ロープ内も含めて知床沼周辺を完全野営禁止となります。ルールは厳守してください。

画像 4 yaei_kinsi.jpg



画像 5 img01.jpg

2) 知床半島先端部地区利用の心得の周知

a. パンフレット「知床半島先端部地区へ立ち入る方へ」の作成と配布

「利用の心得」の内容を分かりやすく簡潔にまとめた普及啓発用のパンフレット「知床半島先端部地区へ立ち入る方へ」（図 1、図 2）を作成し、2,000 部を印刷した。

<パンフレットの構成>

このパンフレットは、先端部地区の利用者への「利用の心得」の普及を促進し、知床半島先端部における自然環境の保全と、安全な利用を促進することを目的として企画した。

「利用の心得」に記載されている基本原則、および共通事項、利用形態ごとの留意事項を主な内容として、パンフレットの読者に「利用の心得」冊子の入手、ウェブサイト「知床半島先端部利用の心得 シレココ」の閲覧、先端部利用に関してレクチャーを行う施設であるルサフィールドハウスへの問い合わせ・来館を勧める構成とした。パンフレットのサイズと形状は一般的に用いられている A4 両面印刷、巻き三つ折り加工とした。

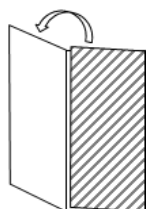
<各ページの内容とデザインについて>

・表紙



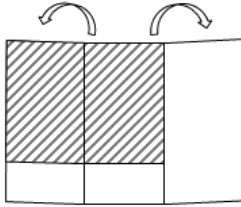
装備を整えた利用者が知床岬へのトレッキングルート上の崖を歩いている写真を用い、本来興味のなかった公園利用者などに、安易に先端部地区の利用を勧めることのないよう配慮した。

・表紙を開いた際の右面



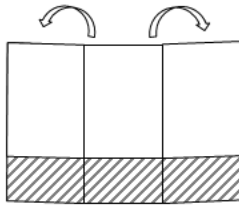
パンフレットの読者が最初に目にするページは、先端部地区に関する説明のページとした。利用者の安全確保、自然環境保全上重要な項目（先端部地区のヒグマの生息密度の高さ、原始的な自然環境、厳しい自然条件）についての説明を掲載した。上部の半分は地図を、下半分は写真を配し、読者が先端部地区の位置や様子を理解しやすいよう工夫した。

・見開き左上側



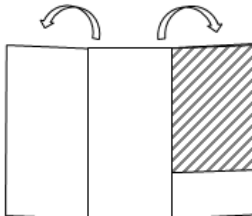
先端部地区の利用にあたり、「利用の心得」に定められている 5 つの基本原則（①自然環境への配慮、②「他の利用者」への配慮、③動力船による上陸禁止、④自己責任、⑤情報収集等）および、共通事項（①リスクの軽減に関する事項、②自然環境の保全に関する事項）を中心に「利用の心得」の基本的な内容を記した。先端部地区の利用に際して必要な装備等を読者が理解しやすいよう、クマ対策用品や服装などの写真を例示した。

・見開き下側



「利用の心得」では、「特定利用形態別事項（特定の利用形態に関して守るべき事項）」として、「海岸トレッキング」、「山岳部登山」、「シーカヤック」、「サケマス釣り」、「動力船」の 5 項目を定めている。これらについて、写真を例示するとともに要点を記載した。

・見開き右側



パンフレットを見ただけで完結し、不十分な理解のまま先端部を利用することがないように、冊子の入手方法を記載した。PDF ファイルを公開しているウェブサイトの URL（知床データセンター、「シレココ」のほか）、ルサフィールドハウス等「利用の心得」を入手できる施設の電話番号・URL、環境省の連絡先を記載した。

・裏面



先端部地区の利用に関するレクチャーや情報提供を行っている施設であるルサフィールドハウスの紹介ページとした。ルサフィールドハウスへのアクセス地図、住所、開館時間、連絡先等の情報のほか、レクチャーの受講、情報収集、装備の確認、ヒグマ対策用品のレンタル等、利用者が先端部地区へ出発する前にルサフィールドハウスでできることを記載した。

知床半島先端部地区は…



国立公園内ですが、
一般の利用のための整備はしていません。

世界有数の
ヒグマ高密度生息地

人間を回避せず
大胆に行動する
個体もいる

原生的な
自然環境

世界遺産や国立公園
の中でも特に厳しく
管理されている

厳しい自然条件

変化する天気、海況、
低い海水温など安全
性は全く保証されない

過酷な条件に対処できる高度な
技術、体力、判断力が必要であり、
すべての行動は自己責任です。

人類共通の財産として
持続的な保全を図り、
より良い形で後世に引
き継いでいく必要があり
ます。



出発する前に来館！

知床世界遺産 ルサフィールドハウス

<http://shiretoko-whc.jp/rfh/>

できること

- ・ルールやマナーのレクチャー
- ・「知床半島先端部地区利用の心得」の入手
- ・先端部地区の情報提供
- ・計画や装備の確認
- ・クマスプレーレンタル
- ・フードコンテナレンタル



〒086-1813
北海道目梨郡羅臼町北浜 8 番地
TEL & FAX
0153-89-2722
開館期間
2月1日～10月31日
(毎週火曜日休館)
*11月～1月は冬季閉館

利用者からの情報提供も
お待ちしております！



2014年2月発行



知床半島先端部地区に 立ち入る方へ



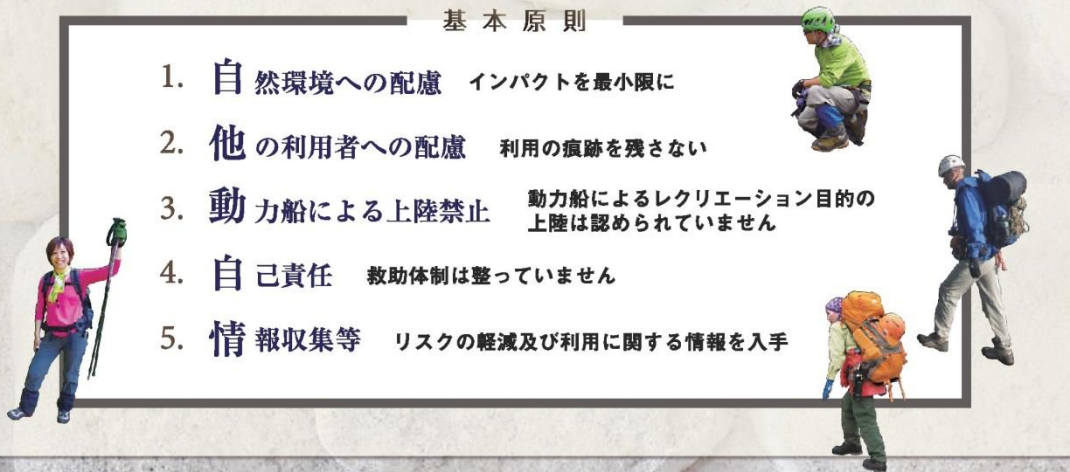
環境省
釧路自然環境事務所

図 1 パンフレット表紙面

知床半島先端部地区利用の心得 未永く知床の環境を守り楽しむための約束です。

基本原則

1. 自然環境への配慮 インパクトを最小限に
2. 他の利用者への配慮 利用の痕跡を残さない
3. 動力船による上陸禁止 動力船によるレクリエーション目的の上陸は認められていません
4. 自己責任 救助体制は整っていません
5. 情報収集等 リスクの軽減及び利用に関する情報を入手



知床半島先端部地区利用の心得

さらに詳しく知るには？

WEBサイト

シレココ

知床半島先端部地区利用の心得を、写真やイラストを多用してわかりやすく紹介したサイトです
<http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/index.html>

利用の心得のPDFダウンロードも
[こちらからどうぞ](#)

関連施設等

- ルサフィールドハウス 0153-89-2722
<http://shiretoko-whc.jp/rfh/>
- 羅臼ビジターセンター 0153-87-2828
<http://rausu-vc.jp/>
- 知床自然センター 0152-24-2114
<http://center.shiretoko.or.jp/>
- 知床世界遺産センター 0152-24-3255
<http://shiretoko-whc.jp/whc/>

環境省

- 羅臼自然保護官事務所 0153-87-2402
- ウトロ自然保護官事務所 0152-24-2297

共通事項

リスクの軽減

自然環境保全

事前準備 必要な準備を揃えるとともに遭難事故等も想定し十分な事前準備を

ヒグマ対策 ヒグマに遭遇しないように準備するとともに、遭遇時はヒグマを刺激しないこと



食料は匂いの出ないものを選ぶ

植生や野生動物に配慮した行動を



利用の痕跡を残さない
 にとっていいのは写真だけ



利用形態ごとに自然保護やリスク軽減の観点から留意すべき事項や禁止事項を定めています。

海岸トレッキング



ルートは極めて厳しい条件。ヘルメット等の必要な装備と情報収集を。

山岳部登山



ロープ等は残置しない。渓流釣りは必要最小限の捕獲にとどめる。

シーカヤック



必要な装備を携行し、最も岸寄りを進むなど適切な行動を。漁業活動に配慮。

サケマス釣り



羅臼遊漁船釣り部会の自主ルールを守る。ウトロ側では行わない。

動力船



野生動物に影響を与えない。(クジラを追い回さない、海鳥の繁殖地に近づかないなど)

図 2 パンフレット中面

<パンフレットの送付>

「利用の心得」冊子とパンフレットは、地元の山岳会やガイド事業者のほか、札幌、東京等のガイド事業者、全国組織の山岳会、全国に支店を持つ登山用品店等 27 団体に送付し周知を行った（表 3）。配布先の選定にあたっては、地元山岳会会長の佐々木泰幹氏（羅臼山岳会）および地元のガイド事業者である石田理一郎氏（知床倶楽部）の助言(P50)を受け決定した。

表 3 「利用の心得」冊子、パンフレットの配布先一覧

種別	地域	配布先名称	配布数	
			「利用の心得」	パンフレット
ガイド団体	知床周辺	知床ガイド協議会	5	10
ガイド団体	札幌市	北海道山岳ガイド協会	5	10
ガイド団体	札幌市	北海道アウトドアガイド協会	5	10
旅行会社	札幌市	株式会社ノマド	5	10
旅行会社	札幌市	ミニムーンフラワー	5	10
旅行会社	東京都	アルプスエンタープライズ	5	10
旅行会社	北海道	知床シーカヤックエクスペディション	5	10
旅行会社	北海道	Hokkaido Backcountry Guides	5	10
観光協会	知床周辺	知床羅臼町観光協会	5	10
観光協会	知床周辺	知床斜里町観光協会	5	10
山岳会	知床周辺	北見山岳会	5	10
山岳会	知床周辺	網走山岳会	5	10
山岳会	知床周辺	羅臼山岳会	5	10
山岳会	知床周辺	斜里山岳会	5	10
山岳会	札幌市	札幌中央勤労者山岳会	5	10
山岳会	東京都	社団法人日本山岳会	5	10

山岳会	東京都	社団法人日本山岳協会	5	10
山岳会	東京都	日本勤労者山岳連盟	5	10
山岳会	北海道	日本山岳会北海道支部	5	10
登山用品店	札幌市	秀岳荘本店	5	10
登山用品店	札幌市	ICI 石井スポーツ札幌店	5	10
登山用品店	東京都	ICI 石井スポーツ登山本店	5	10
登山用品店	全国	株式会社ヴィクトリア	5	10
登山用品店	全国	好日山荘	5	10
大学	札幌市	北海道大学学務部	5	10
出版社	東京都	山と溪谷社「山と溪谷」編集部	5	10
出版社	東京都	東京新聞「岳人」編集部	5	10

b. 先端部地区利用状況に関するヒアリング

<ヒアリングの目的>

「利用の心得」冊子およびパンフレットの配布に際し近年の先端部地区の利用の動向を把握することを目的として、冊子とパンフレットの送付先を対象として電話ヒアリングを実施した。

<ヒアリングの内容と手法>

27の配布先のうち、出版社、大学を除いて電話連絡先が明らかな20団体にヒアリングを申込み、10団体が回答した。ヒアリングの内容は下記6点とし、近年の利用の状況や問い合わせの状況などから、利用者の動向や属性を把握することができるようにした。また、ヒアリング結果をもとに、「利用の心得」の効果的な周知の方法を検討した。ヒアリングの内容に関しては、地元山岳会会長の佐々木泰幹氏（羅臼山岳会）および地元のガイド事業者である石田理一郎氏（知床倶楽部）に意見を求め（P50）、決定した。

■貴団体／貴社のお客様は、過去3年間で知床岬トレッキング、シーカヤック、知床岳登

山をしましたか？

- 貴団体／貴団体のお客様は、今後知床岬トレッキング、シーカヤック、知床岳登山の計画はありますか？
- 知床全般、知床岬トレッキング、シーカヤック、知床岳登山に関する問い合わせの件数や増減について教えてください。
- 知床に関する問い合わせをする人や、知床に来る人はどのような人が多いですか？
- 知床半島先端部に関する冊子や施設などのうち、ご存じのものはありますか？
利用の心得／ルサフィールドハスのレクチャー／ウェブサイト「シレココ」
- 知床半島先端部に関する冊子や施設などのうち、利用したことのあるものはありますか？

<ヒアリングの結果>

■ 登山用品店

・ 秀岳荘（札幌市）

知床に関する問い合わせは横ばいか増えている印象。知床岬の利用については年間 20 人程度の問い合わせがあるが、近年若干減っている印象。問い合わせ件数が減っているのはインターネット上にブログなどの情報が掲載されているためではないか。内容は知床岬への海岸トレッキングが中心。知床岬に関する問い合わせの中心は 20 代～30 代の若い人で、登山の経験があまりないような人が中心である印象だ。「利用の心得」の存在は知らないもので、現在は問合せの際に活用していない。分かりやすいパンフレットやウェブがあるのであれば活用したい。

・ ICI 石井スポーツ札幌店（札幌市）

知床に関する問い合わせは横ばい、知床岬に関する問い合わせはやや増えている印象だ。問い合わせの内容は知床岬への海岸トレッキングが中心だ。道内の人よりもむしろ本州の人からの問い合わせが多く、電話問い合わせもある。知床岬トレッキングの引率者やツアーに関する問い合わせもある。問い合わせをしてくる人の属性は、バイクでツーリングをする人や、キャンプをしながら北海道を周遊する人など、普段登山などをしないような人

がほとんどだ。問い合わせ内容も装備やルート以前の基本的なものばかりだ。「知床岬方面にキャンプ場はあるか」など、知床岬まで歩いて気軽に行くことができるような認識の人が多し。そう簡単に行くことができないということや、ヒグマ対策などについて一から説明をして対応している。登山の経験のある人はインターネットなどを使い自分で調べるのではないか。「シレココ」や「利用の心得」の存在は知らなかったが、クマスプレーの貸し出しを知床で行っていることなどを案内している。パンフレットなどがあれば活用したい。

・ ICI 石井スポーツ登山本店（東京都）

夏が近づいてくると、知床に関する問い合わせの数は増えてくる。毎年相当程度あるが、件数は横ばい。質問内容は観光と登山と半々程度。登山では知床岬方面に関する問い合わせはあまりなく、知床での登山の際のヒグマ対策についての質問が多い。特にニュース等でヒグマが扱われると増加する印象だ。本格的な登山に慣れている人は、書籍やインターネットなどで各自しっかりとルートを調べている印象だ。知床の登山利用に関する分かりやすいパンフレットがあればぜひ欲しい。

■ガイド事業者

・ 株式会社アルプスエタープライズ（東京都）

知床に関する問い合わせや、ツアー参加者はここ 5～6 年で減少している印象。遺産登録前の 10 年ほど前がピークだった。問い合わせの内容は羅臼岳や斜里岳のツアーに関するものばかりで、知床半島先端部についての問い合わせはない。客層は 60 代を中心とした中高年で、登山の経験も豊富で装備がしっかりしている人が多い。知床半島先端部の利用については、過去に残雪期の知床岳登山を行っていたが、天候やアクセスのしづらさなどの条件から登頂できる割合が 1/3 程度しかなくツアーの対象地としては設定しにくいいため、現在は行っていない。また、今後もツアーを設定する予定もない。今後岬などに関する問い合わせ等を受けた際は、送付された冊子やパンフレットを活用したい。

・ Hokkaido Backcountry Guides（北海道）

知床半島先端部の利用は過去 3 年間で 1 回あったのみ。知床岬トレッキングはここ数年

行っていない。知床に関する問い合わせ件数は減っている印象。知床岬トレッキングに関する問い合わせはほぼないと言ってよい。シーカヤックでの先端部利用はごく少数で推移しているのではないか。知床に関する問い合わせをしてくる人は 40 代から 50 代の男性が中心だ。「利用の心得」については知っている。ルサフィールドハウスなどは利用したいと思うが、トレッキングや登山のスタート時間が早いので、フィードバックなど含め営業時間内に利用できないのが現状だ。

・知床シーカヤックエクスペディション（北海道）

海岸トレッキングの数は減っている印象だ。特に軽装で行く人が減り、ヘルメットやハーネスを着用しているような重装備の人が増えていると感じる。シーカヤックの利用者も数としては数年前をピークとして減っているように感じる。以前は 8 月に半島を一周すれば相当数のグループとすれ違ったが、昨年などは 2~3 グループに会ったのみだった。少人数の中老年のグループで内地から訪れる人たちや、普段は川でカヤックを楽しんでいるような人たちがいなくなったのではないか。知床半島先端部に関する問い合わせはよく受けるが、年代としては 35 歳までのシーカヤックを初めて数年の人が多く。問い合わせの際は「利用の心得」やシレココ、知床財団のヒグマ情報のページなどを紹介するようにしている。

・知床倶楽部（羅臼町）

知床岬のトレッカーの数は減っていると思う。かつては北海道をバイクや自転車で一周するような旅行をしている人たちが装備や知識も不十分なまま知床岬を目指すケースが多く見られたが、そういう人たちは減ってきている。

■山岳会

・日本山岳協会（東京都）

山岳会の事務局では個別の動向を把握していないため、知床半島の利用状況についてはわからないが、北海道の登山の場合は個人よりも団体旅行のツアーに参加するケースが増えていると思う。

■観光協会

・知床斜里町観光協会（斜里町）

知床の観光客の入込みは増加しておらず、今年度は若干昨年を下回る見込み。知床半島先端部に歩いて行けるのかという問い合わせは年間 10 件程度あるが、斜里町側からは歩いてゆくことはできないこと、観光船に乗って岬を見る方法があることを伝えている。羅臼側からの徒歩利用については特に案内していない。今回のパンフレット等は問合せがあった際に活用していきたい。

・知床羅臼町観光協会（羅臼町）

知床に関する問い合わせは増加している印象はない。知床半島先端部に関する問い合わせは年間 5 件程度で、増加している印象はない。属性としては若く登山経験のない人が多いため、「その程度の知識や技術では難しい場所だ」と伝えるようにしている。

<まとめ>

電話ヒアリングの結果、先端部地区の利用に際して次のような傾向をうかがい知ることができた。

- ・知床半島先端部地域の利用者数は減少傾向
- ・海岸トレッキングに興味を持つ人の中には、登山経験の少ない人も多くいる
- ・実際に海岸トレッキングを行う人の属性は登山の知識を備えた人が多い
- ・利用者はインターネット等を通じて情報を得ている
- ・ガイド会社などは知床半島先端部の場所の特性や「利用の心得」について知っている場合が多い
- ・札幌の登山用品店等には、知床半島先端部に関する問い合わせが一定数あり、本州からの問い合わせも一定数ある。

3) 地元における勉強会の開催

a. 勉強会の企画

羅臼町で先端部地区の利用にかかわる地元のガイド事業者、遊漁船事業者等が将来的に自主的な先端部地区の利用指導を行う体制を構築するため、当該事業者を対象とした「知床半島先端部地区利用の心得勉強会」を企画した。勉強会では、利用の心得の適切な周知、現場での利用者指導に関する依頼、先端部地区に係る利用状況等の情報収集、知床世界遺産ルサフィールドハウスへの情報提供依頼などを具体的な目標とした。そのため、冒頭で利用の心得の内容紹介を実施し、その後は質疑・意見交換を実施する中で、上記の依頼等を実施することとした。

b. 地元事業者等との調整

勉強会を開催するにあたって、将来的には事業者等が自主的に先端部地区の利用者指導を実施できるように工夫するため、地元事業者等との事前調整を行った。

勉強会に先立って、羅臼町役場や知床羅臼町観光協会、環境省担当官と事前の打ち合わせを実施した。打ち合わせでは、勉強会全体の企画案を提示し意見交換を行った。打ち合わせ結果を踏まえ、勉強会において、利用の心得や先端部地区の利用者数、ルサフィールドハウスでのレクチャー数などを説明するとともに、先端部地区でのヒグマの出没状況や対応方針など地元事業者等から関心の高い議題についても情報交換を行うこととした。また、釣り人やトレkkerに対する指導や、先端部利用者から救助要請があった際の救助への協力を依頼することなどを通して、地元事業者等に自主的に利用者指導を実施してもらえる体制づくりを目指すことを確認した。

さらには地元事業者とも事前に調整を行い、多くの参加者が見込めるよう、勉強会の内容や日時を検討するなど配慮した。また、先端部地区を利用する事業者等が一堂に会する機会に、それぞれの事業者同士が配慮すべき事項などについて意見交換したいとの意見があったため、これらを内容に盛り込むこととした。

c. 勉強会の開催

平成 25 年 12 月 26 日に羅臼ビジターセンター・レクチャールームで開催した。遊漁船関

係者 5 名、ガイド関係者 2 名、羅臼町役場職員 3 名、知床羅臼町観光協会職員 1 名のほか、環境省自然保護官 1 名、事務局として知床財団職員 3 名が参加した。開催にあたってはスライド (P32) および配布資料 (P37) を作成し、開催後に議事概要 (P38) を作成した。事業者等が自主的に利用指導を実施できるよう、特に依頼したい事項は簡潔にまとめて配布資料とした。

勉強会では、冒頭に環境省より「利用の心得」の内容紹介を実施したのち、現場での利用者指導や利用者の救助、先端部地区に関する情報提供についての遊漁船関係者等へ協力依頼を行った。また、羅臼町より近年のヒグマ対策等の状況について情報提供を実施するとともに、その他先端部地区の利用に関する意見交換を行った。

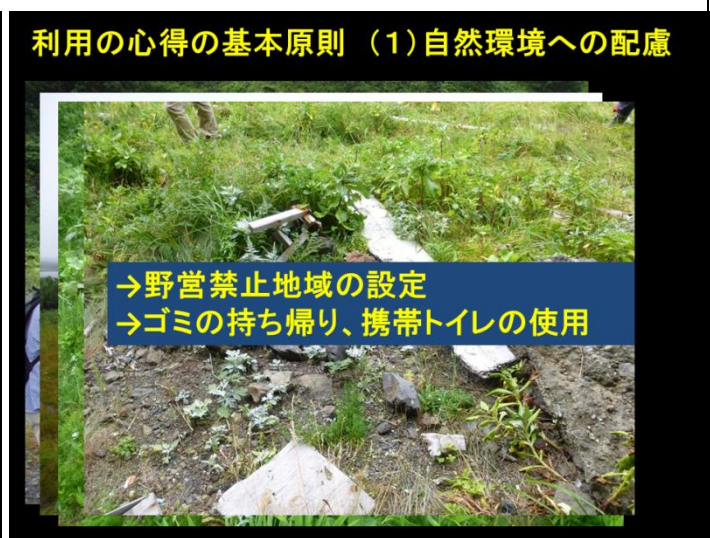
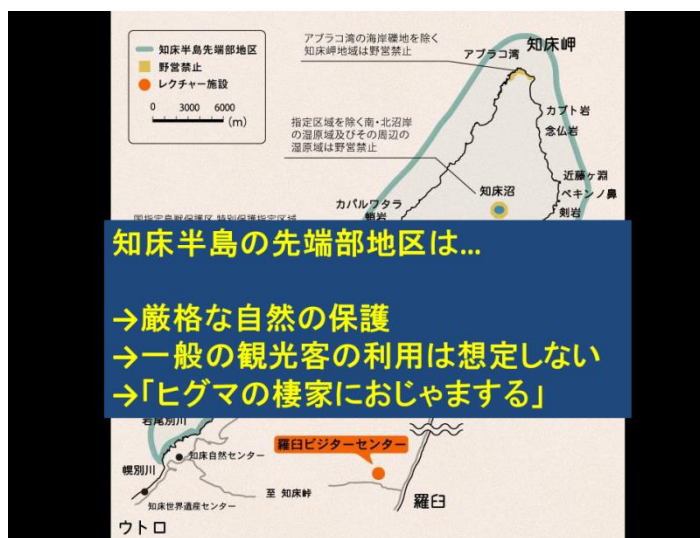
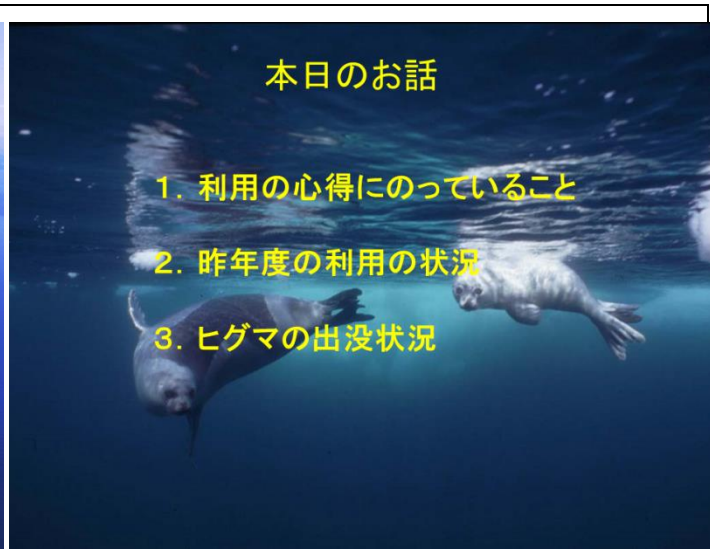
勉強会において、遊漁船関係者が自主的にヒグマ出没情報等を利用者に対して提供しているとの情報提供があった。既に利用者の安全確保には一定の配慮をしているため、今後、更なる普及啓発や意見交換を実施することで、事業者等が自主的に利用指導を実施する体制構築につながることを期待される。利用の心得に記載の内容は多岐にわたるため、事業者等の理解をより促進するために、継続的に分かりやすく啓発していくことも必要と考えられる。また、先端部地区を利用する事業者と関係行政機関が一堂に会する機会はこれまであまり設けられてこなかったため、情報交換と認識の共有のためにも本勉強会は有益であったと考えられる。



写真 2 「知床半島先端部地区利用の心得勉強会」の様子

3. 資料

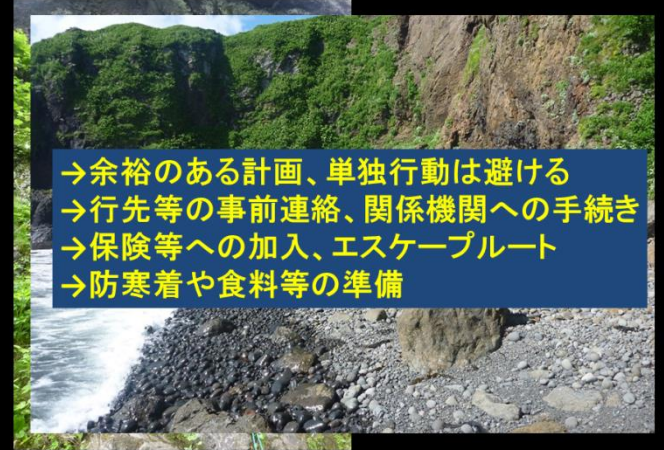
1) 知床半島先端部地区利用の心得勉強会 説明資料



利用の心得の基本原則
(3) 動力船による上陸禁止



利用の心得の基本原則 (4) 自己責任



- 余裕のある計画、単独行動は避ける
- 行先等の事前連絡、関係機関への手続き
- 保険等への加入、エスケープルート
- 防寒着や食料等の準備

利用の心得の基本原則 (4) 自己責任

知床半島先端部地区での
ヒグマ: ヒグマ対策

どんなに注意していても、ヒグマとの遭遇の可能性があります。対策が必要です。

必須アイテム

→ ルシャなどでの野営禁止

→ 食料などの管理の徹底

→ エサやりの禁止

→ 状況によっては引き返す

→ 環境省や役場への情報提供

- ✗ 魚を放置する
釣った魚はすべて持ち帰ること
- ✗ 写真を撮りに近づく
ヒグマの人慣れを促進します
- ✗ 犬を連れて歩く
犬はヒグマを引きつけ刺激してしまいます
- ✗ 子グマに近づく
子を守るため神経質になっています。
- ✗ 背中を向けて走って逃げる
逆効果! 追いかけてきます。
- ✗ シカやイルカの死体に近づく
自分の顔を取られると思って攻撃的になります。

利用の心得の基本原則 (5) 情報収集等



+α
地元の事業者の皆様による啓発・教育

いろいろな利用形態



海岸トレッキング

事前準備が重要!

クライミングロープ
・安全確保用カラビナ
・下降器

ヘルメット

ハース

クマスプレー
フードコンテナ

あると便利

地形図&コンパス
ラジオ&天気図

防水バッグ
スポーツサンダル

登山靴

安全なトレッキングは存在しますが、あらかじめ対策をすることで、リスクを軽減することは可能です。帰路も同じ石と岩の浜を歩きます。登山や沢登り同様のしっかりとした装備と、余裕のある計画を立てましょう。

これはやめよう
番屋の無断利用

番屋は個人の所有物です

フィールドに出る心構え
歩いて行く&帰る

Hello!

漁船はトレッカーのためのものではありません。

フィールドに出る心構え
迷惑をかけないで

新築前の石浜は昆布干し場として漁師さんたちが手入れしています。踏み荒らしたり、汚してはいけません。

邪魔にならないよう通行しましょう。
通るときは挨拶も!

知床岳登山

これはやめよう
たき火

たき火は原則禁止です

山でのたき火は環境への負荷が大きい。

これはやめよう
ルート工作

新たに分け分けを作ったり、ピンクテープを残留しないようにしましょう。

これは禁止です
知床沼周辺は野営禁止

指定区域を除く南・北沿岸の渚原域及びその周辺の渚原域では野営を行わない

テントはロープの張ってある区域内で

フィールドに出る心構え
自己責任で行動する

安全は保証されていません。事故が起きたら大勢の人に迷惑がかかります。

フィールドに出る心構え
漁師さんに迷惑をかけない

海岸の多くは昆布干し場。漁業の仕事の邪魔にならないように気をつけよう!

フィールドに出る心構え
野営を行わない

テントはロープの張ってある区域内で

シーカヤック

7月でも知床の海水温は15℃以下。夏でも低体温症になる恐れがあります。

オープンデッキタイプは避けたい

風に強いカナディアンカヌーや、インフレーターカヤック(空気を入れて膨らませるカヤック)、ゴムボートは、知床の強風には全く太刀打ちできない。冷たい海水から身を守るスペースカートを使用するクローズドデッキが実用的だ。

- ・地形図
- ・ラジオ&天気図
- ・携帯電話は使えない
- ・予備日
- ・非常食
- ・カメラやGPSはしっかり防水対策
- ・計画書

知床の海を漕ぎ切るには、徹底した自己管理が求められます。しっかり準備して、いざ出発!

常に自分の置かれている状況を把握しよう

出航できず停泊することも考慮しよう

フィールドに出る心構え

海は自由...といってもあなただけの海ではありません。周りに心配や迷惑をかけるような行為は避けましょう。

漁網にむやみに近づかない

陸寄りを漕ぐ複数艇は一列で

漁船・観光船の航路を妨げない

沿岸域のサケ・マス釣り

地域のルールを尊重して利用しよう

It's our rule!

羅臼遊漁船部会自主ルールを守る

知床半島先端部地区のサケ・マス釣りは、羅臼遊漁船部会が定めた自主ルールを厳格に守ることを前提に、皆さんに特別な体験を提供しようとするものです。

斜里側は多くが特別保護地区であることや、ヒグマ高密度生息地であるなどの理由から、動力船上陸しての釣りは禁止です。

基本原則: 自然環境の保全、健全なレクリエーションとしての遊漁

安全管理: 気象・海況など。ライフジャケット装着。他の船舶との事故防止。

羅臼遊漁船部会自主ルール

渡船による

その他...

- ・ゴミや釣魚の持ち帰り
- ・靴底の泥を落とす
- ・釣り場から歩き回らない
- ・たき火の禁止
- ・ヒグマとの遭遇の危険性
- ・トイレを事前に
- ・騒音の防止
- ・禁酒

動力船

繁殖地への接近
ケイマフリ、オゾロワシ等

他の船舶との安全管理

無理な接近
写真撮影、ビデオ撮影

漁業活動への配慮

大音響
音楽や放送

餌やり
海鳥にスナック菓子

追い回し
クジラ、イルカ、アザラシ等

ゴミ投棄
ゴミは持ち帰る

一般観光客等のレクリエーション目的の上陸利用は認められていません

利用の心得の入手



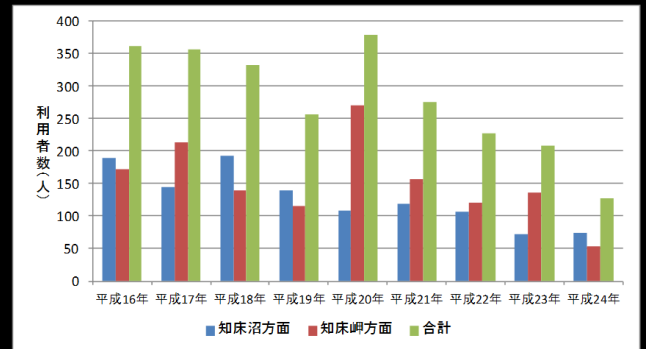
本日、お願いしたかったこと

1. 引き続き利用の心得を守る
2. トレッカーや観光客への指導
3. ルサフィールドハウスへの情報の提供

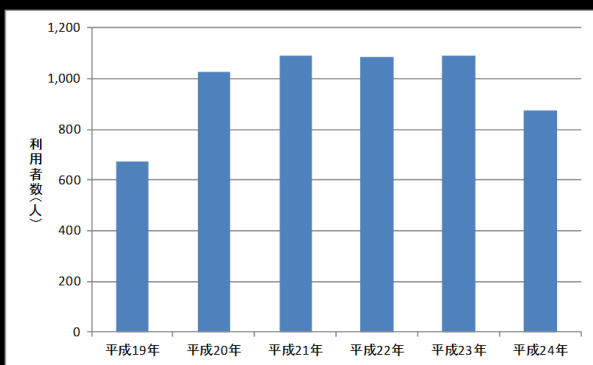
本日のお話

1. 利用の心得にのっていること
2. 昨年度の利用の状況
3. ヒダマの出没状況

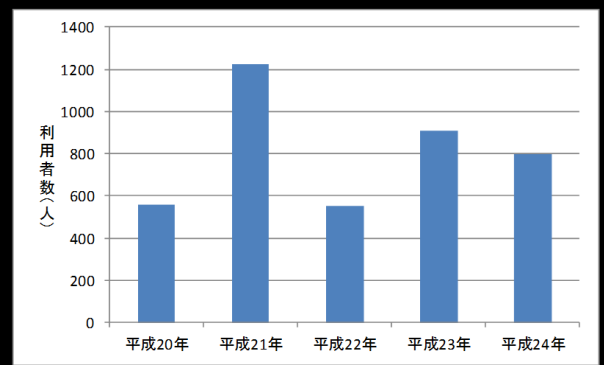
知床岬知床沼方面利用者



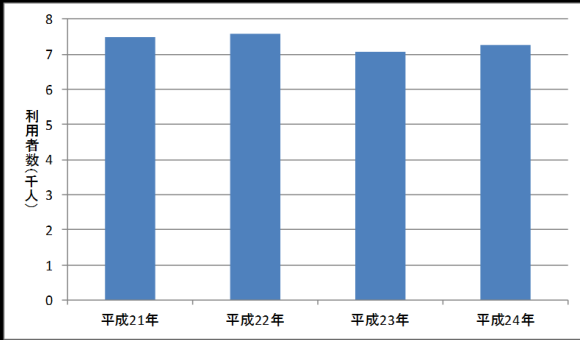
シーカヤック利用者



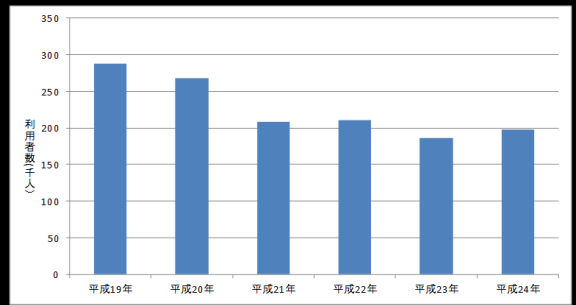
サケマス釣り利用者数



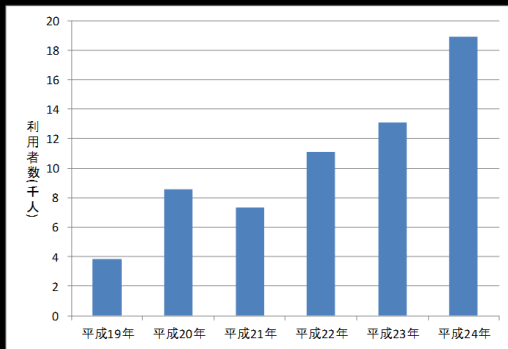
ルサフィールドハウス利用者



ウトロ地区観光船利用者

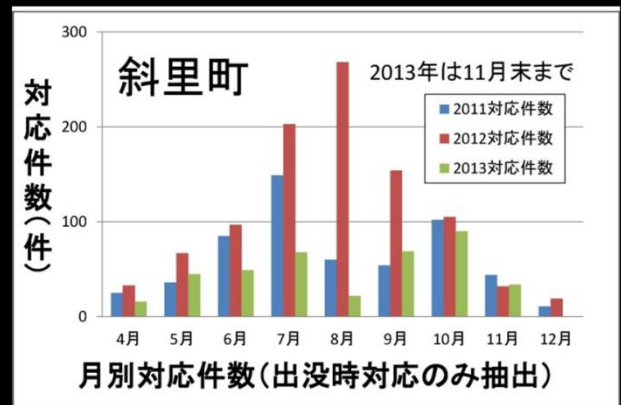
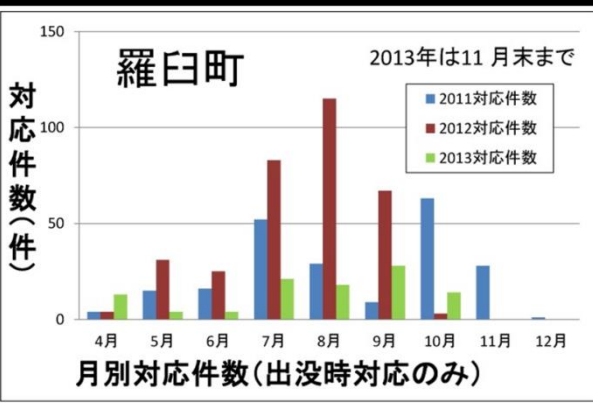


羅臼地区観光船利用者



本日のお話

1. 利用の心得にのっていること
2. 昨年度の利用の状況
3. ヒグマの出没状況



先端部の利用の心得 勉強会 (2013. 12. 26)

今後、対応をお願いしたいこと

○引き続き、利用の心得の遵守

- 動力船による上陸やトレッカーの送迎の禁止
- 各種のヒグマ対策、事故や遭難の予防
- 植物は採取しない、動物には近づきすぎない・エサをあげない
- 遊漁の自主ルール（日帰り利用、釣る魚の量・時期・場所の制限、ゴミや魚の持ち帰りなど）
- その他（野営、たき火、騒音など）

※特に、ブログなどのインターネット上の記事には注意をお願いします。

○トレッカーや観光客への指導

- 装備や知識不足、不十分なヒグマ対策などに対して警告を
- 利用の心得、シレココ、ルサフィールドハウスの紹介を

※利用の心得の冊子はルサなどで入手可。シレココは利用の心得を紹介したホームページ。

○ルサフィールドハウスへの情報提供 (89-2722)

- ヒグマの出没、トレッキングルートなどの変化
- トレッカーや観光客の状況

3) 知床半島先端部地区利用の心得勉強会 意見交換議事録

日時：2013年12月26日（木）16:00～17:40

場所：羅臼ビジターセンター・レクチャールーム

出席者：

羅臼遊漁船釣り部会（文中「釣り部会」）：千綾和喜、斉藤一美、浜田久吉、野田克也、
天神英二

知床ガイド協議会（文中「ガイド協」）：石田理一郎、稲葉可奈

知床羅臼町観光協会：坂本勇介

羅臼町水産商工観光課（文中「羅臼町」）：川端達也、田澤道広、遠山和幸

環境省羅臼自然保護官事務所（文中「環境省」）：三宅悠介

知床財団（文中「事務局」）：遠嶋伸宏、倉沢皆子、眞々部貴之

開会あいさつ（事務局）

知床半島先端部利用の心得に関してスライドを用い解説（環境省）

ガイド協：今年の先端部地区利用者の数字は出ているか。昨年の50人という数字はおかしいのでは。

環境省：今年分はまだ出ていない。2月頃に集計ができる。昨年はクジラの漂着があり、利用自粛要請が出たことで数字が少なくなっている。

今年度のサケ・マス釣りの利用者数はどうか。ほぼ毎日釣り船が出ていたか。

釣り部会：船によりばらつきがあるので詳しくはわからない。毎日ではない。

釣り部会：全体的に釣れていればいいが、半島先端部寄りの釣り場しか釣れていない状況だった。

環境省：今年のヒグマの状況はどうだったか。

釣り部会：滝ノ下で人を恐れないヒグマの親子がいた。人の方に向かってくるので危ない。ヒグマは釣り人が釣った魚を目当てにしているようだ。釣り人が捨てた魚をヒグマに食べられた事例もある。ヒグマは取った魚を山の方に持って行って食べる。

環境省：釣り客数の動向はどうか。

釣り部会：増えてはいない。モイルスで釣りができれば一番良い。滝ノ下は船着き場から釣り場まで徒歩5～10分かかり、釣り場でヒグマが出ても、釣り人をすぐに船に乗せるわけにはいかない。瀬渡しをする際は、沖で待機するようにしている。人馴れした親子ヒグマには轟音玉の効果がない。

釣り部会：今シーズン轟音玉をたくさん投げた。

ガイド協：轟音玉をたくさん使うのは、ヒグマを轟音玉に馴れさせているようなものだ。

羅臼町：轟音玉の効果のない個体がいる。また、人を恐れないヒグマの振る舞いがエスカレートしてゆくこともあり得る。

釣り部会：子グマは人の怖さを知らない。ヒグマは魚を獲ったら、斜面の上の方に持って行って食べている。

羅臼町：釣り人のところに行けば魚が得られるというようにパターンを学習されると困る。

ガイド協：人と魚を結び付けて認識されると、無関係なトレッカーが被害を受ける可能性があり危険だ。

釣り部会：釣り人とトレッカーの違いは魚のにおいでわかるのではないかな。

釣り部会：ヒグマは自分でも魚を取るが、釣り人の魚を取ったほうがより簡単だ。

環境省：緊急時に魚を置いて逃げるといった状況は仕方がないかもしれないが、基本的には魚も含めて船で回収してほしい。ヒグマが釣り人と魚を関連付けてしまうと、遊漁も営業が難しくなるのではないかな。

釣り部会：釣り人にはクーラーボックス持参を推奨している。ただ、クーラーボックスは重いので、網に魚を入れて水中に泳がせておく人が多い。滝ノ下などでは船と釣り場が遠いので、クーラーボックスを持ったまま歩くのは大変だろう。

羅臼町：過去にヒグマがクーラーボックスを開けた例もある。

環境省：数年前に羅臼町役場と一緒に話をしたことがあると思うが、釣りのためだけにヒグマ対応をするのは距離的な問題もあり難しい。努力していただいているとは思いますが、ヒグマに魚と人を関連付けて学習させないように気を付けていただきたい。

羅臼町：ヒグマはあくまで魚狙いだ。魚が釣れた後にヒグマは来るのかな。

釣り部会：印象としては、ヒグマは通り道を歩いていて、たまたま魚があれば取っているようだ。一度魚を取った場所に居座るわけではない。むしろ、居座るのであれば釣り人を別の場所に案内すればよいのだが、そうもいかない。

羅臼町： ヒグマも人馴れしている。移動していたら人がいた、人が魚を残して逃げた、魚が手に入ったというパターンではないか。

環境省： なるべくヒグマに関する情報をルサフィールドハウスに寄せてほしい。ヒグマに対してまったく何もしないわけではない。羅臼町役場と相談してできることはやる。

釣り部会： 以前釣り場にヒグマがいてどうしようもないので何とかならないかと相談したら、釣りのために追い払いはしないとされたが。

環境省： その原則は変わらない。

羅臼町： 釣り人だけでなく、トレッカーや漁業者に影響を及ぼすようになる場合もあるだろう。釣りをするためだけにヒグマを駆除することはしないが、番屋にいる漁業者や、釣り人など、人の命が危ないとすれば話は別で、追い払いを検討する。

釣り部会： 現状そのような危険な状況にはなっていないし、役場や環境省に言ってもどうにもならないと思っているため、相談をしていない。

羅臼町： 人馴れした個体にゴム弾を当ててみるなどの試行もやりたいと思っている。

釣り部会： 今は危険な状況ではないと判断している。トレッカーには、ヒグマの情報を提供している。

環境省： トレッカーに対する情報提供はありがたい。

釣り部会： ヒグマにも縄張りがあるのではないかと。春先に 3 日間同じところにヒグマがい

たという話を聞いたことがある。

羅臼町： 春先などは、食べ物になる植物が多いところに居つくことはあるだろう。

釣り部会： 30～40m の距離で見えるから、個体を識別できるくらいだ。

羅臼町： 市街地でもそうだが、ヒグマは最初から人間に近づいてくるわけではない。徐々にエスカレートしてゆく傾向がある。釣り人に対しても同じではないか。我々が知らないうちにヒグマの振る舞いがエスカレートしていくのが怖い。

釣り部会： 人も危ない。

羅臼町： 知床財団は頻繁に岬に行っているので、状況を視察したりすることもできるのでは。

釣り部会： 過去に、先端部でのヒグマの駆除をハンターにお願いしたが、役場から許可が出ないため駆除できないと言われたことがあった。

羅臼町： 危険な個体は何頭か駆除したことがある。

ガイド協： モイルスでテントを張るトレッカーが多いと思うが、ヒグマとのトラブルはどうか。夏には番屋に人がいなくなると思うが、トレッカーはどの辺にテントを張っているか。

釣り部会： 番屋の近くだ。滝ノ下はテントを張りやすいが、水があるのでヒグマが来る。

ガイド協： モイルスでテントを張る人が一番多いのでは。

釣り部会：潮の関係もあるので、進めない場合はモイルスで泊まるほかない。

環境省：トレッカーの数は増えているか。装備が適切でない人は減ってきたか。

釣り部会：岬へ行ってきた人はみな「素晴らしかった」と言うが。

釣り部会：8割の人は帰ってきてから「知床岬までのトレッキングをなめていた」と言う。
中にはハイキング気分で行く人もいる。

ガイド協：海岸トレッキングという名前が良くないかもしれない。

釣り部会：トレッカーにヒグマ情報を提供するようにしている。

ガイド協：トレッカーに情報を与えてくれるのはありがたい。

釣り部会：基本的にはヒグマの方がトレッカーを避けている。

環境省：不用意なトレッカーへの注意など引き続きお願いしたい。

ガイド協：犬を連れた軽装備の人が漂着したクジラのそばを平然と歩いていることがあった。

釣り部会：暗がりでも犬を連れて歩いている人もいた。

環境省：利用者には自己責任と言ってはいるが、事故はないに越したことはない。引き続き協力をお願いしたい。

羅臼町：利用者への聞き取り調査の際、難しい対応を求められる利用者はいるか。

釣り部会：聞き取り調査を受ける利用者は、「うるさいな」という雰囲気だ。

羅臼町： 釣り客で聞き分けのない人はいるか。

釣り部会：そういうお客さんは最初から乗船させないようにしている。

釣り部会：以前はそういうお客さんも見たが、最近はいなくなった。

環境省： 自主ルールにも定められていることだが、番屋などに宿泊しての釣りは引き続きご遠慮いただきたい。特に、インターネットのブログ等で宿泊して釣りを行った等が発信されていることもあり、注意をお願いしたい。また、宿泊に限らず自主ルールの遵守は引き続きお願いしたい。

釣り部会：知床沼は海岸トレッキングと比べてヒグマの遭遇は多いのか。

ガイド協：海岸トレッキングの方がヒグマと遭遇する確率が高い。登山道は人とヒグマのルートが重複することが少ない。

羅臼町： 基本的には、どこであってもクマは人を避ける。登山道でも、人を避けて行動しているが、林や森の中なので我々が気づくことが海岸と比較して少ないだろう。

釣り部会：ヒグマも歩きやすいところを歩いているのでは。

羅臼町： 藪を歩くよりも登山道を歩くほうがいいということはある。やはり食べ物が多く得られるので海岸をよく利用しているのだろう。

ガイド協：シーカヤックの利用で不適切な利用はあるか。

釣り部会：遊漁釣り部会には暗黙のラインがある。先頭を走っている船はシーカヤックとぶつかりやすい。シーカヤックを見つけた際は、無線で連絡を取り合って船同士で情報交換している。過去にシーカヤックと船外機付き昆布漁船が接触したことがある。シーカヤックは高さがないため、波の高さによっては全く見えないことがある。目印用の旗などつけることはできないか。

釣り部会：イカ漁の船外機付き漁船はほかの船から見えるように目印をつけている。

釣り部会：シーカヤックのルートと交わる場所は気をつけて走っているが、シーカヤックがショートカットのために沖を進んでいる場合危険だ。

事務局：ありがたい情報だ。ルサフィールドハウスなどでレクチャーを行う際、生かすことができる。

ガイド協：シーカヤックと船外機付きの船が接近した時、シーカヤックはどうするのがいいか。

釣り部会：船外機付きの船が気づいていれば、シーカヤックは止まってお互い確認しながらすれ違うのがいい。

釣り部会：こちらからシーカヤックが見えていれば問題ない。

ガイド協：船外機付きの船からシーカヤックが見えていないというのは非常に重要だ。

羅臼町：シーカヤックからは船外機付きの船は見えるか。

ガイド協：見えている。

環境省： ヒグマウォッチングツアーに客は来たか。

釣り部会：それほど多くはない。

釣り部会：環境省に後押ししてほしい。

環境省： ヒグマに近づきすぎないなど、ルールを守っていただければ、ビジターセンターなどで広報することはできる。

釣り部会：近づきすぎるとヒグマは逃げるが、近づかないとヒグマは見えない。

羅臼町： 4～5m の距離に近づいても逃げないようなヒグマを作りたくない。

釣り部会：ルシャにいるヒグマは近づいても逃げない。ヒグマを見るという側面ではいいが。

環境省： そういうヒグマばかりになってしまっても困る。ヒグマと船との距離はどのくらいが適当か。

羅臼町： 具体的に何メートルということは難しい。

釣り部会：近くからヒグマを見られるに越したことはないが、近づきすぎればヒグマは逃げる。

羅臼町： たとえば、経験的に普通のヒグマが 50m の距離で逃げるということがわかっているとして、その距離より近づかないようにすればいいのではないか。

釣り部会：50mまで近づけるのならば、ヒグマを見るという点では御の字だ。

釣り部会：クジラが海岸に漂着していた時でさえ、カメラマンが50mまで近づいて行ったらヒグマは逃げた。

環境省：50mが目安になるのではないか。

釣り部会：波がある場合は50mに近づくことも難しい。

環境省：ヒグマウォッチングツアーの来年の見通しは。

釣り部会：ヒグマとの遭遇率は十分だったが、利用者数が足りていない状況だ。

釣り部会：羅臼ではヒグマウォッチングは成立しないのでは。

釣り部会：ヒグマだけでなく鳥も見られる春先などはよい季節だ。

環境省：環境省で海鳥ウォッチングに関する資料を作成しようとしている。大型船向けのマニュアルや、観光客に渡すためのパンフレットだ。

釣り部会：その資料は欲しい。なかなか鳥はわからない。鳥に詳しいお客さんに聞いたりするが、なかなか覚えられない。

環境省：作成したら遊漁釣り部会にも提供したい。トレッカーの送迎は今年どの程度あったか。

釣り部会：あまりなかった。

釣り部会：トレッカーの数自体が多くない。

ガイド協：帰りの迎えを前提としているトレッカーはいたか。

釣り部会：シーカヤックの人で進めなくなったから乗せてほしいということはよくある。

折り畳みカヌーの 3 人パーティが疲れて帰れないので乗せて帰った事例があった。

環境省：トレッカーの緊急の送迎はあったか。

釣り部会：3 回ほどあった。

釣り部会：重症の例はない。

釣り部会：足をくじいたり、靴底が取れてしまって歩けなくなったりしたトレッカーを船で送り返した。

ガイド協：その場合お金はどうしているか。

釣り部会：釣り場からの通常の運賃で運んでいる。

環境省：ルサフィールドハウスなどでは知床岬まで往復徒歩で行くことを原則として案内をしている。緊急の場合は乗せていただいてもよいが、インターネットなどを通じて口コミで広がるのが恐いため、船に乗ったトレッカーには本来は船での送迎はしていないことを伝えてほしい。

釣り部会：トレッカーを往路乗せてゆくことはしていない。

ヒグマの出没状況等に関してスライドを使い解説（羅臼町）

釣り部会：環境省は相泊に建物を建てて監視員などの人を置くことは考えないか。

釣り部会：空いている番屋を活用するという話があると聞いたが。

羅臼町： 具体的な話にはなっていない。

環境省： ルサフィールドハウスがその役割を果たしている。

釣り部会：ルサフィールドハウスは車で通ると気づかずに通り過ぎてしまうことがある。

環境省： 最後に 3 点お願いしたい。1 点目として今後も「利用の心得」を守ってほしい。今回ヒグマウォッチング船でヒグマに近づきすぎないという話もあった。また、自主ルールを守ってほしい。2 点目としてトレッカーや観光客への指導を引き続きお願いしたい。安全確保の面でも協力してやっていきたい。また機会があれば利用の心得などのルールについて指導をお願いしたい。3 点目はルサフィールドハウスへの情報提供をお願いしたい。ヒグマやルートの情報などあれば寄せていただきたい。

以上

4) 打合せ記録

打 合 せ 記 録 簿

第 回					追番	頁	
			主任監督員	監督員	主任技術者	担当者	担当者
発注者・印				受注者・印			
日時	2014/1/16 15:30—16:00(石田氏) 2014/1/16 (佐々木氏)			場所	羅臼ビジターセンター事務室		
業務名	知床半島先端部利用の心得啓発業務			打合方式	会議 ・ メール		
出席者	発注者側			請負者側	知床財団 坂部 知床財団 眞々部		
<p>「知床半島先端部地区利用の心得」およびパンフレット送付先、および送付時のヒアリング内容について知床ガイド協議会会員石田理一郎氏、および羅臼山岳会佐々木泰幹氏にヒアリングを行った。事前に両氏にヒアリング案をメールで送付し、石田氏とは会議で、佐々木氏とはメールで意見を伺った。</p> <p><配布先について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業ベースのシーカヤック利用のほとんどを知床シーカヤックエクスペディションが占めるので、シーカヤック利用者への配布は同ツアーのみで問題ないだろう。(石田氏) ・よく知床岬を訪れている北海道大学の学生団体に学務部を通じて送付する。(石田氏) ・旅行会社アルプスエンタープライズには送付してほしい。(佐々木氏) ・HOKKAIDO BACKCOUNTRY GUIDESに送付する。(石田氏) ・地元山岳会は遭難対策協議会のメンバーに送ればよい。(石田氏) ・その他は主要なところをおさえており問題ないだろう。(石田氏) <p><ヒアリング内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング内容については現状で問題ない。(佐々木氏) ・ヒアリング時に、どのような人が知床岬を訪れているか、といった情報も聞いてほしい。(石田氏) 							

環境省釧路自然環境事務所 請負業務

業務名：平成 25 年度 知床半島先端部地区利用の心得啓発業務

業務期間：平成 25（2013）年 7 月 3 日～平成 26（2014）年 2 月 28 日

業務実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356

北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531 番地

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料（A ランク）のみを用いて作成しています。